

Title	第 7 回ピア・スーパービジョンを終えて (第 7 回ピア・スーパービジョン)
Author(s)	大島, 知子
Citation	総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.1, 2011.6 : 14-14
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=3062
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

第7回ピア・スーパービジョンを終えて 大島知子

今回のピア・スーパービジョンでは、はじめに卒業生3名から今職場で感じていることについて報告していただいた。それぞれ分野は異なるが、三名の報告には共通の悩みや課題があった。例えば、専門職として職場に配置され、経験年数にかかわらず責任ある仕事を任される。あるいは、職場の人員配置や業務の膨大さ等により、教わる機会がなく、一人で問題を抱えている、等である。これらは、その後のグループごとの話し合いや参加者の感想から、対人援助を行う多くの人が経験することだとわかった。大変さの中にいる時は自分の性格や自分の職場だけの問題と思っているが、参加者と話すことで、自分だけではない、と



3名の報告を受けて、ピア・スーパービジョンを行った

いう気持ちの共有ができたと思う。

報告者からはそのような状況に対して、相談できる上司や同僚の大切さ等、具体的な取り組みや方法が語られた。私としてはそのなかでも、組織の環境や考え方を改善するよう取り組むことも大切という言葉が、私にはできなかったことなので印象に残った。おそらく、グループごとのピア・スーパービジョンでも報告者の発表を受け、各自が悩みやお互いの経験を話し合い、有意義な時間を持てたと思う。私のグループは卒業生四名であったが、それぞれの言葉から学生時代に教わった共通の考え方を感じ、普段話するとき以上に話しが通じる体験をしたことは、この集まりならではのと思う。

その後の全体共有の時間には、先生方から、感想やご自身の経験についてコメントをいただいた。先生方が私たちの経験に共感し、ご自身の経験から話してくださったことはとても身近に感じられ、あたたかい気持ちになった。

人間福祉学科第1期生の中には経験年数が10年目に入る人も出てくる。また、このピア・スーパービジョンには卒業生以外にも参加者がいる。今後、卒業生が新たに加わっていくなか、参加者は先輩として迎える立場にもなり得るのではないかな。そう考えると、私たちが日頃抱える悩みや経験は、マイナスなものではなく、ピア・スーパービジョン全体にとって、大きな財産になるだろう。

今回、久しぶりに会う先生、友人、先輩、後輩が大勢いた。ピア・スーパービジョン終了後の交流会の席では、初対面の人や同じ業種の人とも知り合えた。今後、相談できる仲間に出会うこともでき、貴重な時間を過ごした。

(おおしま・ともこ 地域包括支援センター勤務、社会福祉士、2002年度聖学院大学人間福祉学科卒業)